

# 実技指導者ライセンス検定試験実施マニュアル

	スクエアダンス		
	コーラー	シニアコーラー	コーラーコーチ
<b>筆記試験</b>			
1 実施の目的	指導者としての知識を確認するため実施する		
2 実施の方法	1名以上の補助員により、試験用紙の配布、試験の説明、試験の監督を行う		
3 出題の方法	問題・解答用紙はA3サイズとし、読みやすい字体と大きさの文字とする		
	出題形式は記述式、選択式とする		
4 出題範囲及び内容	別表-2-3 の判定方法の 筆記試験の欄から出題する	別表-2-2 の判定方法の 筆記試験の欄から出題する	別表-2-1 の判定方法の 筆記試験の欄から出題する
5 設問数	共通問題2問、層別問題3問とする（合計 5問）		
6 配点	100点満点(20点×5)		
7 所要時間	30分	45分	60分
	受験者は開始20分を過ぎれば、解答用紙を提出して退室できる。		
8 合否判定の基準	60点以上を合格とする	70点以上を合格とする	80点以上を合格とする
<b>面接試験</b>			
1 実施の目的	指導者としての適性を確認するため実施する		
2 面接の方法	実技試験と併せて実施できる		
	検定員による面接 4人まで同時に実施できる	検定員による個人面接	
3 質問内容	*氏名と所属クラブ *経験年数 *指導経験年数 *所属クラブでの役職 *S協及びS協関連組織の 行事への参加経験		*氏名と所属クラブ *経験年数 *指導経験年数 *所属クラブでの役職 *S協及びS協関連組織の 行事への参加経験 *指導者育成について の抱負
4 所要時間	1人 5分以内	5分以内	
5 合否判定の方法	検定員の合議により合否を判定する		
6 合否判定の基準	*指導者にふさわしい服装・態度・言葉使いか *所属クラブやS協への協力が期待できるか		

# 実技指導者ライセンス検定試験実施マニュアル

	スクエアダンス		
	コーラー	シニアコーラー	コーラーコーチ
<b>実技試験</b>			
1 実施の目的	指導者としての技術的な適性を確認するため実施する		
2 準備	パターコール課題の音源(男性用×1、女性用×1) ホーダウン&シンギング音源は受験者が準備する 音響機材一式(アンプ・マイク・マイクケーブル・スピーカー) 音楽再生装置(PC又はCDプレーヤー等)		
		受験者が音源と再生機を持参する	
		演技者1セット分	
3 試験の手順 1) ダンスの技術	4人以内の受験者を試験会場に入れて待機させる 順番に演技者を誘わせ、指定した組でスクエアセットを作らせる パターコール課題を流し、スクエアダンスを踊らせる ダンスが終了したら、受験者に退室を指示する		
	2) コールの技術	一人の受験者を試験会場に入れて待機させる 演技者がスクエアセットを作る MSプログラムのパターコールを3ゲットアウト分及びシンギングコールをミドルブレイクまでコールさせる (リーディングコールも可) 受験者が選択したコールシステムによりMSプログラムのパターコールを3ゲットアウト分及びシンギングコールをミドルブレイクまでコールさせる コールが終了したら、受験者に退室を指示する	
3) 指導の技術		一人の受験者を試験会場に入れて待機させる 検定官から示されたコール或いはルール等の課題について演技者を使って指導させる 指導が終了したら退室を指示する	
4 試験の範囲	別表-2-3 の判定方法の実技試験の欄から出題する	別表-2-2 の判定方法の実技試験の欄から出題する	別表-2-1 の判定方法の実技試験の欄から出題する
5 所要時間	10分以内	15分以内	
6 配点	ダンスの技術 40点 コールの技術 60点	ダンスの技術 30点 コールの技術 40点 指導の技術 30点	
7 合否判定の基準	ダンスの技術 25点以上 コールの技術 35点以上	ダンスの技術 20点以上 コールの技術 30点以上 指導の技術 20点以上	ダンスの技術 25点以上 コールの技術 30点以上 指導の技術 25点以上
	合計 60点以上	合計 70点以上	合計 80点以上
	上記判定基準の全てを満たした者を合格とする 検定員の平均点とし、小数点以下は切り上げとする		
8 検定員の資格と員数	シニアコーラー以上 3名	コーラーコーチ1名以上を含むシニアコーラー以上 3名	